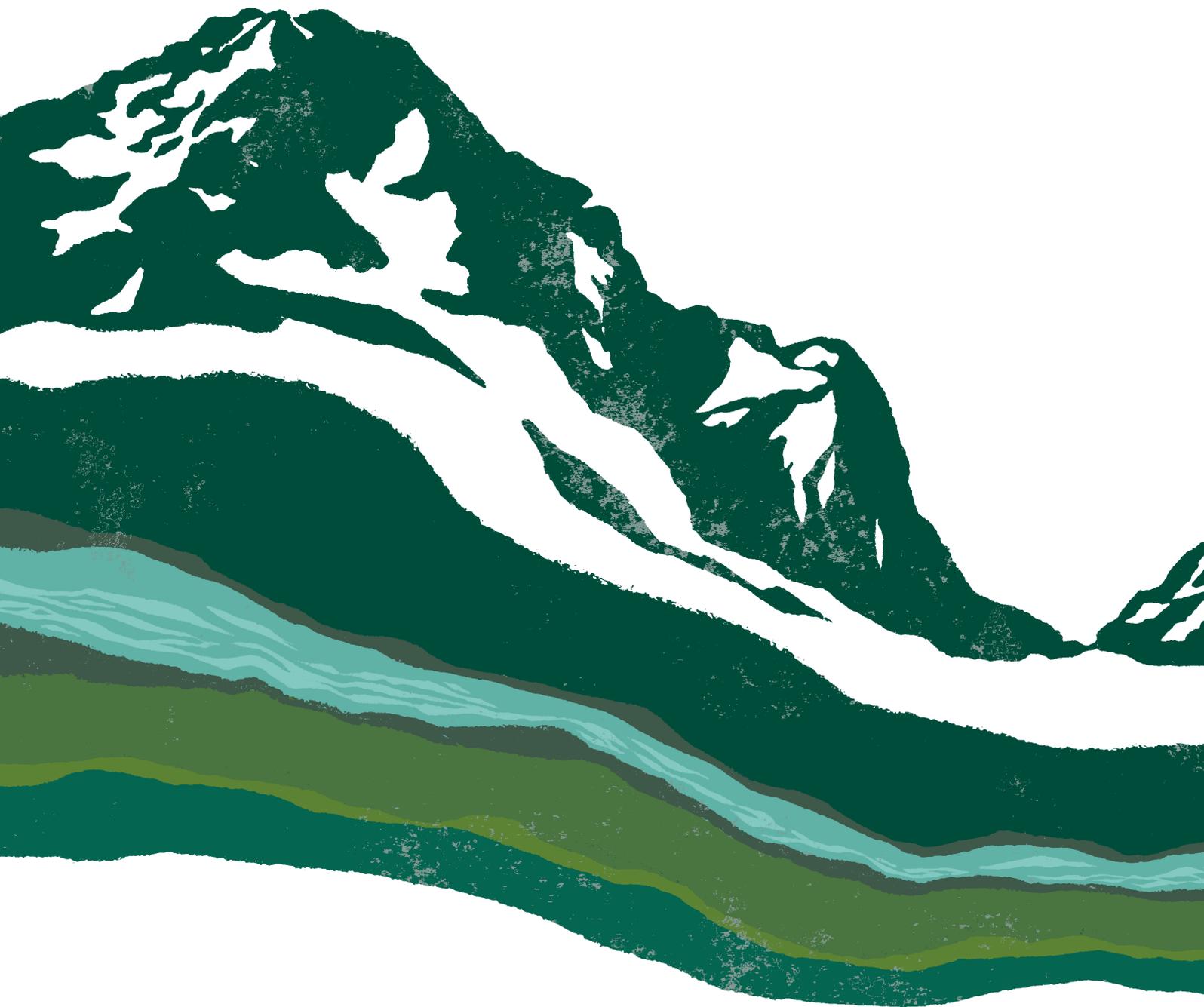


川湯温泉

インタープリテーションガイド





源泉は硫黄山。熱源はひと。

はあ〜生きかえるう〜。

湯に浸かれれば、誰もが幸せの息を吐く。

鉱夫、漁師や農家たち、湯治客。

多くの人がこの名湯を訪れてきた。

古くは道産子馬でさえも足を休めた。

インバウンド、人口減少、コロナ。

いつだって地方は、時代の影響を受ける。

地元のひとが熱くならず、人が呼べるだろうか。

巨大なカルデラ、美しい国立公園の森にある川湯温泉。

大地のエネルギーを感じ、雄大な自然を遊ぼう。

この地の食をいただき、文化を伝承しよう。

わたしたちは川湯温泉街をアップデートしていく。

それは流行に迎合するのではなく、

ほんとうの価値を見出すことから始まる。

さあ、地元発のやさしいまちづくりを。

ひとを癒やし、自分たちも癒やされるって、最高だ。



川湯温泉

HOKKAIDO TESHIKAGA





弟子屈町・一般社団法人 摩周湖観光協会からのメッセージ

2023年に策定された「阿寒摩周国立公園弟子屈町川湯温泉街まちづくりマスタープラン」は、20年間を計画期間とする川湯温泉街再整備に関する基本的な方針をまとめています。それは、これまでをなかったものにしてすべてを新しくすることではありません。これまでの価値を引き継ぎながら、さらに磨きをかけ、これからの新しい価値を創り出す「現代版川湯温泉への原点回帰」だと考えています。

まず私たち一人ひとりが、誇れる地域を改めて知ることからはじめましょう。「ここで生きてきてよかった」という気持ちや、「関わってよかった」と思える取り組みは、この場所を訪れる来訪者の「また来たい」に必ずつながります。未来をつくる取り組みを一緒に作りあげましょう。

目次

- 03 弟子屈町・一般社団法人 摩周湖観光協会からのメッセージ
- 05 インタープリテーションの意味と目的
- 06 インタープリテーションの要素・本来の価値
- 07 インタープリテーションガイドブックの活用方法

- 08 火山、森、湖、そして温泉。
- 09 川湯温泉と火山の物語。
- 11 硫黄山があるから、川湯温泉がある。新鮮な温泉がある。
- 13 大地の恵みを、体が求める。温まりが早く、長持ちする。
- 15 まとめ

- 16 歴史と文化
- 17 川湯を守りつづける川湯神社。
- 19 郷土愛の礎。町の無形文化財となった川湯ばやし。
- 21 住んでいるひとが、あたたかい。はじまりの駅、川湯温泉駅。
- 23 まとめ

- 24 温泉街
- 25 地元の人が誇れる、これからの温泉街へ。
- 27 人が歩くと、その後にまた人が歩く。岩盤テラスからはじまる、次のまちづくり。
- 29 地域でづくり、地域でたのしむ。川湯温泉街の味わい。
- 31 常連客がにぎわいをつくる、川湯温泉街ならではの品質と安心。
- 33 まとめ

- 34 人と心
- 35 好きな場所を大切にすることが、川湯ファンを増やす。
- 37 自分たちが汗をかく。それが本物のまちづくり。
- 39 まとめ

- 40 マスタープランとこれから
- 41 阿寒摩周国立公園弟子屈町川湯温泉街まちづくりマスタープランとは
- 42 マスタープランコンセプト
- 43 導入する体験・機能
- 45 川湯温泉街ブランドづくり

- 46 資料集
- 47 カルデラMAP
- 48 硫黄山と川湯温泉のつながり
- 49 温泉街MAP



自然と、
わたしたちと、
まちと、
来訪者と。

それぞれをつなぎなおし、
再び川湯温泉を本来の姿へ。

「インタープリテーション」とは、
訪れるすべてのひと
私たちをつなぐコミュニケーション活動です。
訪れたいのために伝えるべきこと、
訪れたときに体感・体験してもらいたいこと。
自然環境から歴史と文化、
ここに暮らす私たちの日常にある
物語や想いを紡いでいきます。
特別な価値を共有し、
深いつながりを創り出す。
持続可能な観光まちづくりにつなげていきます。

川湯温泉街には紹介すべき4つの要素と、関連性がある物語でつながる本質的価値があります。川湯温泉街インタープリテーション計画では、地域主体の観光まちづくりという視点から住民や事業者の方のインタビューを実施。みなさんの言葉から、来訪者に伝えるべきコンテンツを整理していきました。

自然と温泉

日本最大のカルデラ

屈斜路湖と摩周湖

硫黄山と10の火山

温泉

歴史と文化

川湯神社

川湯ばやし

川湯温泉駅

温泉街

温泉街のこれから

岩盤テラス

産業とブランド

飲食店文化

人と心

まちのみなさん

行政の役割

さあ、学んでみよう。

自分のまちのこと。

当たり前のように存在している自然も、いつでも入れる温泉も。それぞれつながりがあり、実は他のまちにはない魅力です。それは昔からこの土地に住み、耕し、生活してきた先人たちの努力そのもの。そんな時間軸にも思いを寄せながら、このまちのことを改めて知り、考えていきましょう。

1 自分と来訪者の接点を考えてみる。

観光に携わるみなさん以外にも川湯地区で暮らす住民として、まちを訪れた来訪者のみなさんと、どんな接点が考えられるでしょうか。まちで道や場所を尋ねられたり、飲食店で隣の席に座ったり。別のまちで暮らす友人や知人に、川湯温泉のことを聞かれたり。もしくはどこかに旅行した際に、自分のまちの話になるかもしれません。

2 まちの人の心から学ぶ。

まずは「自然と温泉」「歴史と文化」「温泉街」「人と心」を解説したインタビューを読んでいきましょう。ひとつの記事を読むだけでなく、各要素毎に登場するみなさんの記事を読み進めていくと、関連性が見つかるはずです。その上で「訪れるひとに望むつながり」を参考例として、自分ならどう思うのかを考えてみましょう。

3 伝えるべき物語を組み立ててみる。

各要素の「まとめ」ページには、伝え方や提案方法の参考となるような文章と来訪者が驚くであろうキーワードを書いておきました。また、それを伝える効果的な体験例も紹介しています。みなさんが①で考えた接点において、正しくコミュニケーションができることを目指していきましょう。

インタープリテーションガイドブック活用の取り組み、はじまっています。

インタープリテーションガイドブックは一度作って終わりではありません。来訪者の方が、また来たい川湯温泉にしていくために、もっとできることはないか、新しい取り組みをはじめたら良いかなどまちを更新するためのきっかけをつくる必要があります。

12万年という時を経て。
火山、森、湖、
そして温泉。





川湯温泉と火山の物語。

日本には数多くの温泉地がありますが、川湯は日本屈指の強酸性（約pH1.7）の湯を楽しめる、非常に特徴的な温泉地です。“火山”をテーマとした阿寒摩周国立公園の中にあり、日本一大きな屈斜路カルデラや、日本一透明度の高い摩周湖など、火山活動によって形づくられた壮大な自然景観が広がっています。川湯温泉の湯は、まさにその恵みの一つです。

温泉と火山は切っても切り離せない関係にあります。この国立公園にある川湯温泉では、温泉を楽しむだけでなく、その背景にある大地の成り立ちにも目を向けてみてください。この地がいち早く国立公園に指定された理由の一つは、まさにこの地形の貴重さと壮大さにあります。ここでは、火山という地球のダイナミズムを、景観や温泉、水、動植物などを通して、身近に感じることができるのです。

川湯温泉が位置する屈斜路カルデラの成り立ちは、およそ2,000万年前の海底での活動にまでさかのぼります。噴出物が堆積して陸地ができ、約30万年前には屈斜路火山が大噴火、さらに約12万年前には山体が崩れて巨大なカルデラが形成されました。川湯

温泉はそのカルデラ内にあり、現在もアトサヌプリ（硫黄山）から供給される熱とガスによって、強い酸性の温泉が湧き続けています。

このように、川湯の温泉は地球の長い時間の流れと自然の営みの中で生まれたものです。湯に浸かって癒されるだけでなく、温泉の背後にある火山の物語にも思いをはせてみてください。阿寒摩周国立公園が“火山”をテーマにしている場所だからこそ、こうした自然の営みに目を向けることは、この土地をより深く味わうための大切な鍵になるはずです。

ポイント

火山を知れば、温泉がもっとおもしろくなる！

川湯温泉は強酸性の湯が楽しめる、火山の恵みそのものの温泉地です。阿寒摩周国立公園という“火山”がテーマの場所にあるからこそ、その成り立ちや背景を知ること、温泉の魅力がいっそう深まります。

訪れるひとに望むつながり

人の尺度を超えた時間と規模に触れ、自然への畏敬の念を感じてほしい。



川湯ビジターセンター
センター長 安藤 心さん

静岡県出身。2020年より川湯ビジターセンターで勤務。阿寒摩周国立公園の自然を解説し、地域の魅力を発信する。川湯温泉の好きな温度は中温。

元気の源

少し早めに出勤して周辺を散策。たくさんの鳥に出会えます。

解説

阿寒摩周国立公園

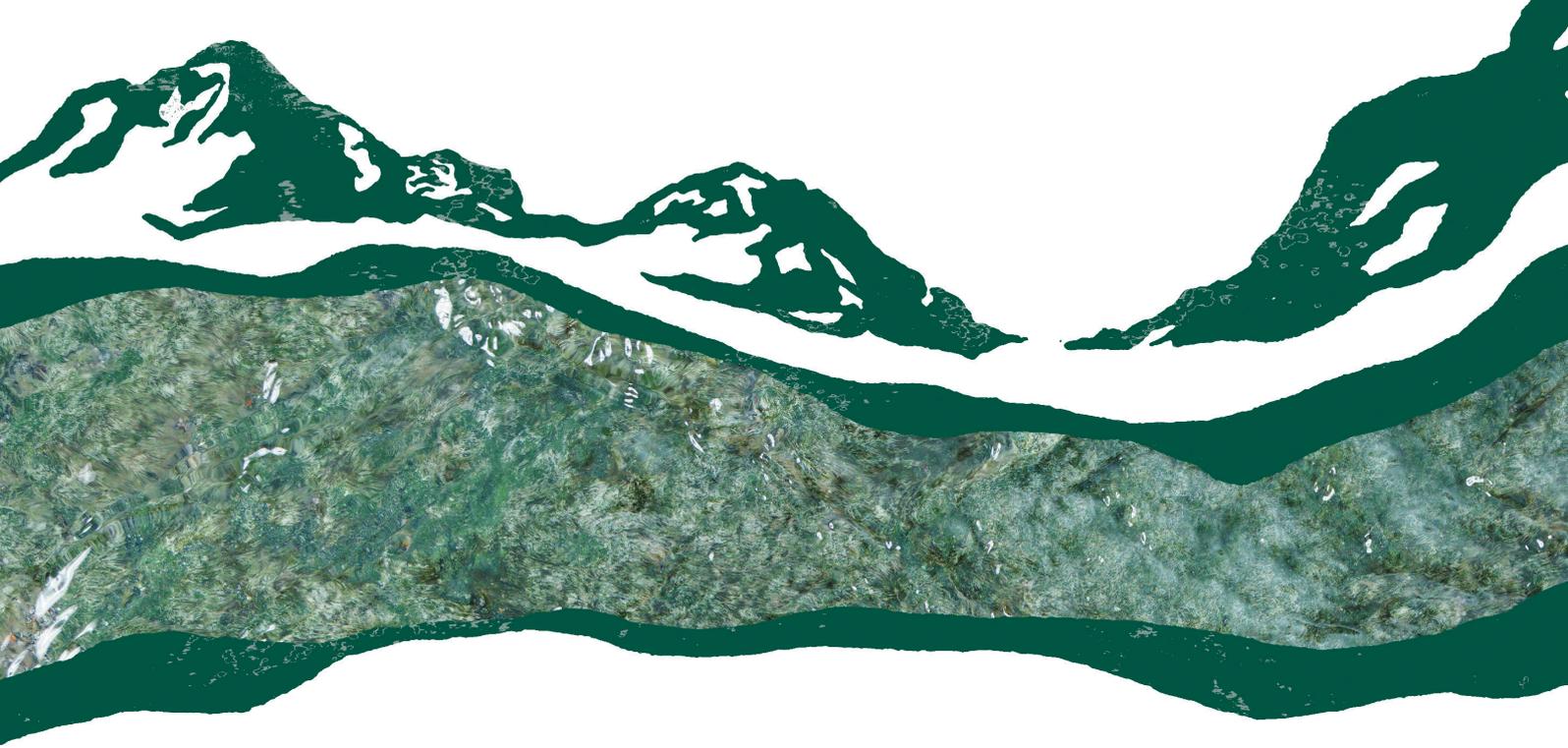
千島火山帯の活動によってできた阿寒・屈斜路・摩周の3つのカルデラ地形を持ち、火山と湖とのペアが狭い範囲でいくつも近接している地形は、全国的にも貴重。

屈斜路湖

日本最大のカルデラ湖。湖水の面積は約80km²。冬には湖水が凍結し、割れた氷がせりあがる「御神渡り現象」が起こる。

摩周湖

1931年に世界一の透明度「41.6m」を記録し、高い透明度が生み出すその神秘的な色は「摩周ブルー」と呼ばれています。霧が多く発生するため、別名「霧の摩周湖」と言われています。



硫黄山があるから、川湯温泉がある。 新鮮なお湯がある。

数年前に観光協会の仕事をしていた頃、台湾から旅行会社やメディア関係者をお招きして川湯温泉を紹介する機会がありました。その時にせっかく遠くから来てもらったのに、見てもらうだけではもったいないと思ったのです。この地域の素晴らしい自然、地形、人にはそれぞれ歴史があり、そこに焦点を当てて伝えようと急いで紙芝居をつくりました。美幌峠をひとつとってみても、今は山や峠だと認識されていますが、歴史をさかのぼれば噴火口の崖でした。そのように長い時間をかけて形作られた風景を、その時間軸で捉えてもらうことができれば、もっと滞在を楽しんでもらえるはずです。もうひとつ大切なことは、地下水の行方です。川湯温泉の温泉は、摩周湖の伏流水が硫黄山で熱せられてつくられています。マグマの熱と地下水が地面の中でぶつかることで、水蒸気爆発を起こしているのが硫黄山の白い煙の正体。あれは温泉成分を含む水蒸気なのです。一方、地表に現れな

かった熱水はつつじヶ原の地下の浅い部分、水を染み込ませない不透水層である岩盤の上を通り温泉街まで流れてきます。それを汲み上げて温泉として使用しているので、空気に触れる時間がとても短く「真空パック」と言っても過言ではありません。空気に触れれば酸化や劣化してしまうので、川湯温泉はとても新鮮だといえるでしょう。そういった異なる目線で、この川湯温泉の大転換期を感じてもらえれば良いですね。

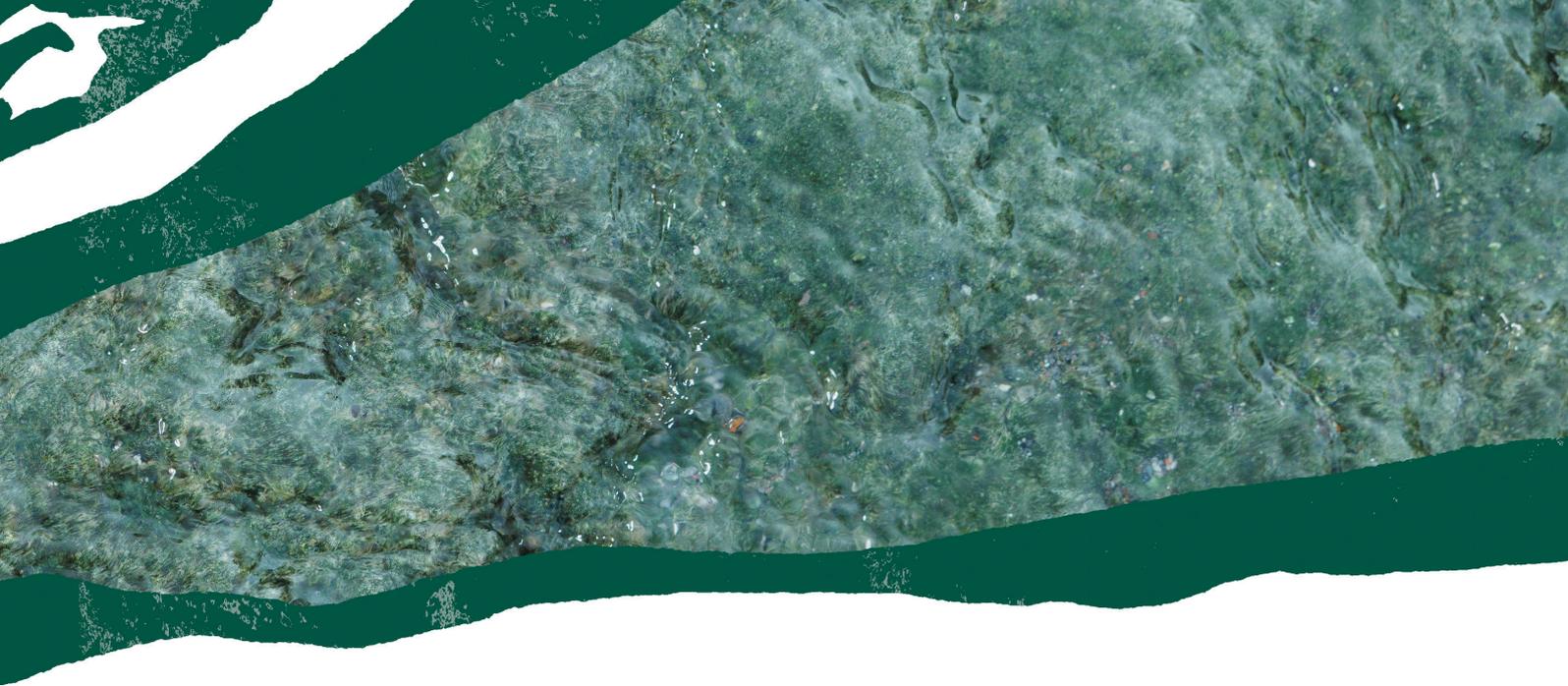
ポイント

川湯温泉のはじまりも硫黄山。

1877年から本格的に硫黄の採掘が行われた硫黄山。働く坑夫たちを癒すために川湯温泉が開かれ、その後に鉄道が通り、沿線には家が立ち並んでいきました。

訪れるひとに望むつながり

硫黄山の長い歴史と地下水の行方を感じてほしい。



川湯観光ホテル
代表取締役 中嶋 康雄さん

北海道弟子屈町川湯温泉出身。2000年、川湯観光ホテル代表取締役に就任。宿泊業を営みながら、川湯温泉の成り立ちを描いた自作の絵本や紙芝居で、魅力を伝える。川湯温泉の好きな温度はすべて。

元気の源

弟子屈町内、7つの源泉をまわる。

解説

硫黄山の歴史

硫黄採掘がはじまった当時、硫黄はマッチや火薬の原料として需要が高まっていた鉱物でした。硫黄山は採掘量が豊富で、全道で2番目となるほど。この硫黄採掘によって、ほぼ未開の地であった弟子屈・釧路を含めた道東の産業が急速に発展していったのです。

※出典：川湯ビジターセンターホームページ

絵本「かわゆものがたり」

屈斜路カルデラの誕生からはじまる自然のものがたり。硫黄山で生まれる川湯温泉のメカニズムや硫黄採掘の歴史をおじいちゃんと孫のおしゃべりで楽しく紹介。

*中嶋さん制作



大地の恵みを、体が求める。 温まりが早く、長持ちする。

川湯温泉の発展の材料は、やっぱり温泉そのものだと考えています。これだけ良い温泉があるのだから、温泉観光地だという意識がずっとありますね。何を言っても温泉抜きには考えられないし、もし温泉がなくなれば誰も来てくれません。あるのが当たり前じゃないと思いますし、この環境があるのは奇跡ですからね。なので、大地の恵みをありがたく感じつつ、自然からの贈り物に感謝の気持ちを思いながらお湯に浸かってほしい。そういうことに気づけるような、自然を感じるものも周辺には山ほどあります。海外からのお客さんからよく言われるのですが、君たちはこんな素晴らしい場所に住んでいるんだよと。世界中探しても、こんな場所はないと言ってくれます。そこで当たり前暮らししていることが幸せです。

私が川湯温泉に入ろうと思うときは、特に体が冷えてきたときです。自宅の風呂とは温まり方が違うので、

やっぱり体が求めるのでしょうか。芯までの温まりが早いですし、長持ちするという感覚です。お湯に浸かっているときの、あのピリピリとした感覚を直接肌で感じる良さ、お湯から出ても感じる良さが確かにありますね。川湯温泉のリピーターのお客さんは多いと思いますので、そういう違いを感じてくれているはずですよ。

ポイント

川湯温泉の基本的な入浴方法。

まずは低温から入浴、中温や高温へと徐々に温度を上げて入浴します。非常に濃い温泉なので絶対に無理をせず、自身の体調に合わせておたのしみください。

訪れるひとに望むつながり

大地の恵みをありがたく感じる、自然に対する感謝の気持ちを感じながらお湯に浸かってほしい。



解説

川湯温泉の泉質

強酸性硫化水素を含む明ばん・緑ばん泉、日本でも数少ない火山性特有の泉質。療養泉。口に含むとレモンより酸っぱい約pH1.7の川湯温泉は、五寸釘を1週間ほどで溶かしてしまうほどの強酸性です。

酸性・含硫黄・鉄(II) - ナトリウム - 硫酸塩・塩化物泉 (硫化水素型)

川湯温泉の殺菌効果

温泉療法医監修のもと、2020年11月7日に川湯温泉の強酸性泉の殺菌効果実証実験を行いました。温泉水と水道水それぞれに手を5分間浸し、自然乾燥したのちに手形培地プレートにて検体調査を行った結果、細菌数は水道水に浸したときよりも明らかに減少しました。また、川湯温泉街にある温泉川の水質調査でも大腸菌が検出されておらず、強酸性の殺菌効果が強力に作用していると考えられます。

川湯温泉の効能

【全身浴の効能】

痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、きりきざず慢性皮膚病、慢性婦人病、月経障害、糖尿病、運動麻痺

【飲泉の効能】

慢性消化器病、慢性便秘、慢性胆のう炎、胆石症、糖尿病、痛風、便秘、肥満症、貧血など



いなか家 源平

井出 雄策さん 井出 遥さん

お二人とも、北海道弟子屈町川湯温泉出身。店主は日本源泉かけ流し温泉協会の理事を務める。居酒屋「いなか家 源平」は1977年創業。川湯温泉の好きな温度は高温。

元気の源

川湯温泉の香り。

まとめ

川湯温泉街についてまず伝えるべき内容は、「火山」をテーマにした阿寒摩周国立公園のなかに在るということです。日本一大きなカルデラ湖である屈斜路湖と日本一透明度の高い摩周湖、特殊な環境を強く生きる植物や動物たちとの出会い。その全てが火山の恵みであり、数万年の時を超えて今感じるができるものだと考えました。硫黄山のマグマによって温められた摩周湖の伏流水である温泉も、そのひとつです。しかも、水を染み込ませない岩盤層を通して空気に触れることなく温泉街の源泉まで辿り着くので「新鮮」だという現象は他の地域にはない価値のひとつです。あのピリピリとした感覚は、まさに大地のエネルギーを直接肌で感じていることになります。

キーワード

日本最大の カルデラ	火山の中にある 温泉地	特別な現象	五感を通じた 体験
自然への敬意	風景の捉え方	地下水の行方	硫黄山の 煙の正体
水を染み込ませない 岩盤	空気に触れる時間	新鮮な温泉	自然に対する 感謝
素晴らしい 場所に住む	火山性特有の 泉質	殺菌効果	

効果的な体験



エコツーリズムプログラム



硫黄山MOKMOKベースでひと休み



各温泉施設での入浴

人が大切にしてきたこと。

歴史と文化





川湯を守りつづける川湯神社。

川湯神社は1877年、川湯温泉を開いた浅野清治さんが小社殿を建立し、守護を願ったのが始まりです。その後、年を追う毎に人口が増え、1935年には川湯温泉の町並みが形成されていき、その当時の有志たちが町の守護と温泉守護を願うべく弟子屈神社から守護神を受け賜りました。始まりから数えると148年もの間、地域の人たちによって支えられ川湯を守り続けてくださっています。今は私が総代を務めています。

私は18歳の時から川湯の郵便局に勤めてきました。当時の郵便局には当直の仕事があり、1週間に1回くらい寝泊まりをするんです。ですが当時の川湯温泉は湯治客がとても多く、そして温泉街を歩くときは下駄なので夜中の2時くらいまでうるさくて眠れないほど人が歩いていました。漁師さんや農家さんが一年

の仕事を終え、慰安に訪れていたのでしょうか。私が小さい頃には、馬の湯治場もありました。怪我をした時に治療していたのでしょうか。川湯温泉は動物さえも、癒す場所だったのです。数ある温泉地で選ばれてきたのは、やはり温泉の質でしょうか。これからもそれを守りつつ、川湯神社の景観も良くなっていくと嬉しいですね。

ポイント

川湯神社のはじまりも硫黄山。

川湯神社が建立された1877年は、硫黄山の採掘が佐野孫右衛門により本格化した年。川湯温泉にとって大きな節目の年。

訪れるひとに望むつながり

硫黄山と川湯温泉、まちの歴史がつながる接点として川湯神社にお参りしてほしい。



横田 憲治さん

北海道弟子屈町川湯温泉出身。2012年より川湯神社総代。川湯温泉の好きな温度は中温。

元気の源

温泉入浴、魚釣りと野菜作り。

解説

「弟子屈」と「川湯」の由来

弟子屈はアイヌ語で「テシカ・カ(岩盤の上)」、川湯は「セセキベツ(熱い川)」と呼ばれていたことから「湯の川」と呼ばれていましたが、函館の「湯の川温泉」とまぎらわしいので「川湯温泉」に改めた。

川湯神社

川湯神社境内の手水舎は、温泉です。手湯は全身の血流を良くし、リラックス効果があります。強酸性で殺菌効果の高い温泉手水で、手も、身も心も清めましょう。

馬頭観音

北海道の開拓にとって馬は、運搬・開墾などに利用され、非常に重要な役割を果たしました。そのような背景から庶民信仰として馬頭観音がよく祀られました。



郷土愛の礎。

町の無形文化財となった川湯ばやし。

「川湯ばやし」は今から約50年前、1972年6月に行われた「白ツツジ祭り」にて初披露しました。当時の川湯地区は「温泉と自然」が観光資源の中心であり、他に何かできることはないかと当時の川湯温泉観光協会の人々が考え、福井県越前町の「明神ばやし」に目をつけたことが始まりです。ですが明神ばやしは、江戸時代初期から伝わる郷土芸能で、後には県の重要無形民俗文化財に指定されています。それでも観光協会の人々は何度も現地に赴き、陳情を重ねたそうです。その熱意が通じ、福井県の保存会員たちが川湯を訪れ、明神ばやしの特訓を行い伝承してくれたのです。川湯では、小学生から川湯ばやしに参加する子どもたちを集めています。中学生の部は、一緒に川湯ばやしをやりたい!と集まった一部の生徒と先生で立ち上げました。僕は少し遅れて6年生からはじめたのですが、楽しくなってしまう。中学に入っても、川湯ばやしをやりたい!と当時の会長さんにお願いました。それをきっかけに、男の子だけだった川湯ばやしに女の子が参加できるようになりました。

川湯ばやしは、お祭りでの五穀豊穡を願う奉納の太鼓です。踊りの動き、一つひとつには意味があり、農業の動きをモチーフにしています。でも中学生以上の川湯ばやしでは、自分らしさや自分の好きな踊りを取り入れることを良しとしています。それを楽しんでもらいたい。地域の子どもたちが少なくなるなか、新しい風を吹かせつつ伝承していければと考えています。

ポイント

川湯ばやしの良いところはコチラから。



訪れるひに望むつながり

旅行で訪れたときに、もし川湯ばやしの演奏を見ることができたら、こんな小さな町に何代にも渡って守られてきた伝統があったんだねということを憶えてほしい。

また大切な人と川湯温泉に来てもらえるきっかけになるとうれしい。



炉ばた まるはち
瀬川 太一さん

北海道弟子屈町川湯温泉出身。2024年より、川湯ばやし保存会会長を務め、川湯神社例大祭の奉納演奏やイベントで川湯ばやしを披露する。1991年に開店した「炉ばた まるはち」の二代目店主。川湯温泉の好きな温度は高温と中温。

元気の源

お店の営業が終わった深夜、静まり返った温泉街を歩くこと。

解説

川湯神社例大祭

川湯の夏を締めくくるお祭り。川湯ばやしの披露から地元の子どもも参加する神輿行列奉納、子ども相撲大会などが行われ、地域ならではの伝統文化を体験できます。

川湯マルシェ

秋の紅葉が美しい時期に行われ、地元の飲食店やキッチンカーが集まり、おいしいものや雑貨・小物などを販売。川湯ばやしの披露もあります。



住んでいるひとが、あたたかい。 はじまりの駅、川湯温泉駅。

20年間ずっとお店をやりながらの川湯温泉生活なので、日々の生活に追われてしまい、何がいいのかわからなくなっているのですが、ふとした時の景色にはいつも目を奪われます。すごい所に住んでいるんだと。私は愛知県出身で移住者なのですが、この川湯温泉駅周辺はそもそも移住者が多く、住民のみなさんが受け入れてくれていて、応援されているなど感じてきました。最初は冬も大変だし、こんなところに住めるのか不安でしたけどね。川湯温泉駅前でお店をはじめて20年、その節目で「森のホール」は閉店しましたが、今は駅内の「オーチャードグラス」で新しいカタチでお店をオープンしています。また新たなはじまりです。

ポイント

川湯温泉駅の足湯。

温泉街とは異なる泉質の足湯。駅の待合室も兼ねているので、あたたかく列車を待つことができます。

訪れるひとに望むつながり

もう一度来てもらいたいと願いながら接客しているので、ぜひ何度も訪れてリピーターになってほしい。

おすすめルート

和琴半島自然探勝路

半島を一周する「和琴半島自然探勝路」は、約2.5km。30~40分ほどかけて半島をぐるりと回ることができます。

屈斜路湖をながめながら歩いていくと、珍しい高山植物が花を咲かせていたり、トドマツの見事な純林があったり、幹の周囲が15mにも及ぶカツラの巨木が枝を広げていたり、心浮き立つような森歩きが楽しめます。

半島の先端には、火山の名残である「オヤコツ地獄」があり、展望デッキからは噴気の上がる様子を見下ろすことができます。食べもののおすすめは「いもだんご」。



森のホールパブリック

武山 まき子さん

愛知県出身。2005年に川湯温泉駅前、旧国鉄官舎にてカフェを開業。現在は、川湯温泉駅舎内オーチャードグラス内「森のホールのケーキ・お菓子販売所」で手作りのケーキを販売中。川湯温泉の好きな温度は中温。

元気の源

早朝の空気。早朝や夜の散歩。



解説

西沢商店

川湯温泉駅前2丁目1-6

TEL: 015-483-2347

オーチャードグラス

川湯駅前1丁目1-18 内川湯温泉駅舎

TEL: 015-483-3787

生活雑貨・ぱん PANAPANA

川湯駅前1丁目1-14

TEL: 015-483-3188

温古知新

川湯駅前2丁目6-12

TEL: 015-483-3351

青葉トンネル

硫黄山 MOKMOK ベースから川湯温泉駅
までの約1.5kmのルート

川湯温泉駅

川湯駅前1丁目1

川湯温泉駅のあし湯

川湯駅内

川湯の歴史を語る上で欠かせないのは、川湯神社です。はじめは硫黄山での硫黄採掘が本格的に開始された1877年。硫黄山で働く坑夫たちを癒すために開かれた川湯温泉の歴史そのものと言っても過言ではありません。その後町並みがつくられていき、道東各地の一次産業を担う農家や漁師たちの湯治場として栄えていきました。開拓の歴史にとって大切だった馬も、怪我を治すために川湯温泉に連れられて来たそうです。湯治客だけでなく観光客も増えていった1972年、さらなる発展のため福井県の「明神ばやし」に着目し、川湯温泉に根付かせたいと「川湯ばやし」がはじまりました。新しい魅力という意味では、川湯温泉駅前も欠かせない地域となっています。

キーワード

1877年	川湯神社と硫黄山	馬の湯治場	セセキベツ (熱い川)
郷土愛の礎	川湯神社例大祭	川湯マルシェ	川湯温泉駅の あし湯

効果的な体験



川湯神社への参拝



川湯ばやしを観覧



川湯温泉駅周辺を散策

武山さんのおすすめルート

- 1 川湯温泉駅出発
駅の駐車場を歩いて行くくと農道に出ます。その農道をぐるっと歩いて進みます。
- 2 くりむ童話
農道を歩いて行くくと踏切を左に曲がります。角にあるのが「くりむ童話」。おすすめは夏季限定の「ソフトクリーム」。農道を歩きながら景色をたのしむ。畑と硫黄山の組み合わせはここからがベスト。
- 3 青葉トンネル
一般的な道路にあるトンネルではなく、頭上を覆うように生い茂る木の葉によってできた約1.5km(片道45分)ほどの自然のトンネル。
- 4 硫黄山



あたたかさを浴む。

温泉街





地元の人が誇れる、 これからの温泉街へ。

私は生まれてから小学生まで川湯温泉で育ち、中高大そして社会人としてのスタートも道外で、2011年に戻ってきました。1980年に生まれているので、川湯温泉の一番良いときを知っています。小学生の時は毎日ホテルにお風呂に入りに来ていました。お風呂もとても混んでいましたし、帰り道にも温泉街はたくさん来訪者がいて。その後、衰退の道を歩んでいったわけです。生まれ育ったまちに戻ってきてから旅行会社に営業活動に行っても、川湯温泉のイメージは良くありませんでした。阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトがはじまり、廃業したホテルの取り壊しが決まったあたりから風向きが変わってきました。住んでいる住民のひとりとしても、川湯温泉のイメージがプラスに動き出しているのは誇らしいですね。

これから街並みや景観整備、まちづくり含めて変わっていくと思います。でも実は僕たちのような事業者は、そんなに変わりません。来訪者をお迎えして、満足して帰っていただくというのを繰り返していくことが重要。なので、自分の事業や自分たち個々人を見失わ

ないように、今まで続けてきた良いことを中心にやっていくことが大事だなと思っています。やっぱりたくさんの人に、この地域の一番の魅力である温泉を入浴だけではなく、五感で体感してもらいたいですね。硫黄の匂いや手触り、肌がピリピリする感じ含めて。なので、一人でも多くの来訪者に来ていただきたい。街並みもそうですし、単価も含めて温泉街の機能として選択肢が増えるとより魅力的なまちになるのではないのでしょうか。

ポイント

榎本さん、おすすめの川湯温泉の入り方

- ① 疲れている時は、低温から徐々に温度を上げていく。
- ② 二日酔いの時は、中温で入りながら温泉を飲みサツと上がる*。
- ③ むくみがひどい時は、高温でギリギリまで我慢して低温でゆっくり入る。

*川湯の森前にある足湯近くの飲泉場をご利用ください。

訪れるひとに望むつながり

川湯温泉が心安らぐ場所であるとともに、温かい人間関係や自然とのつながりを育む場となることを願っている。

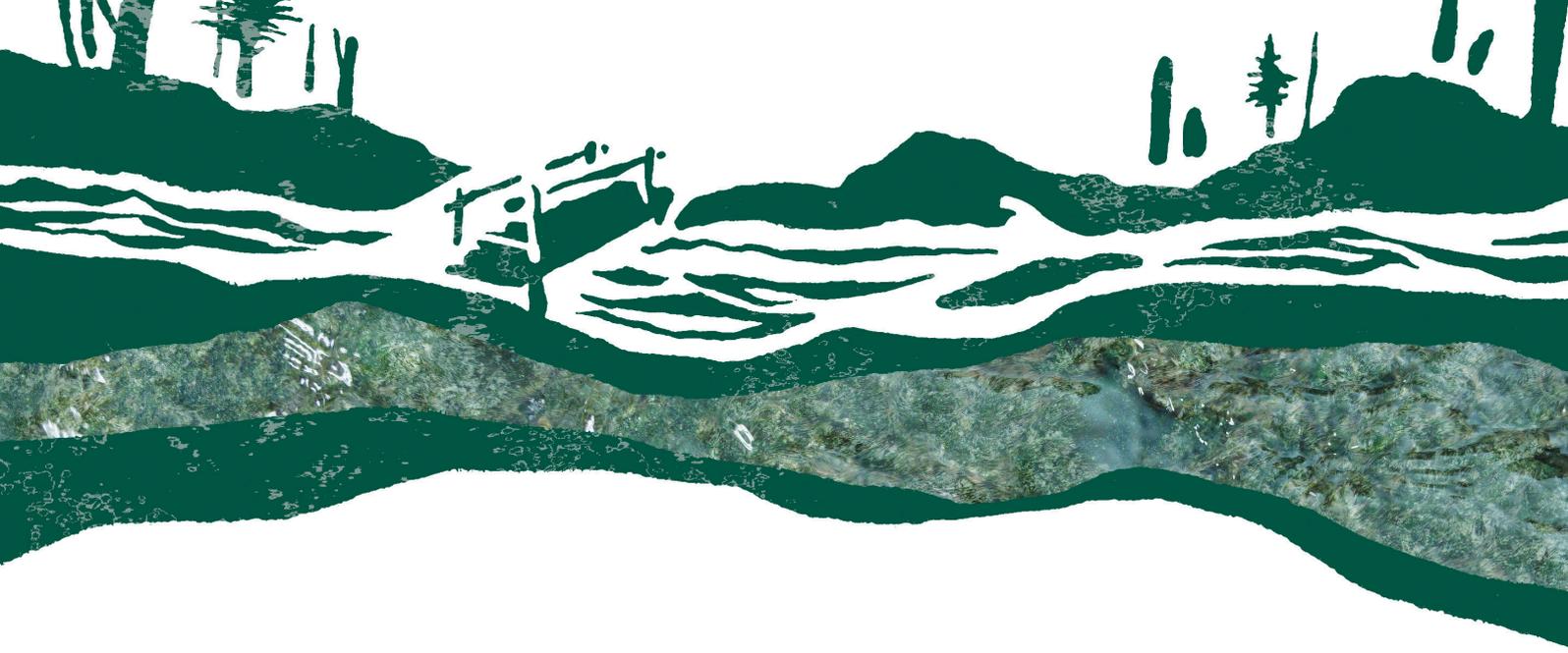


川湯ホテルプラザ
代表取締役 榎本 竜太郎さん

北海道弟子屈町出身。2011年、川湯ホテルプラザに入社し、2017年に代表取締役就任。「お宿欣喜湯 別邸 忍冬」を運営。川湯温泉の好きな温度はすべて。

元気の源

川湯温泉には、毎日入らず体へのご褒美としている。



人が歩くと、その後にもまた人が歩く。 岩盤テラスからはじまる、次のまちづくり。

川湯温泉に帰り飲食店を開店したのは20代。その頃は好きなことばかりやっていて、周りのことは興味なくせに温泉街の景気がどんどん悪くなると不満ばかり言っていました。そんなある日、口だけじゃなく行動しなきゃと思い、阿寒摩周国立公園川湯地域運営協会に入りました。川湯エリアの保護と利用促進に努め、散策ツアーと温泉川の整備や清掃に50年以上も力を入れてきた団体です。

川湯温泉はその名の通り、まちの中に温泉の川が流れています。これはとても貴重な財産で観光資源なのに、少し前まではその価値に気づかず、利用はおろか大事にもしてこなくて。でも川湯が宿場町として宿が建ち始めた昔の写真を見ると、木造平屋が多くどこからでも川が見え、あちこちで湯けむりが上がってまさに温泉街。まちが発展し大型ホテルがどんどん建つと川はホテルの裏になり、温泉の配管や排水パイプで川を隠していったのです。配管には落ち葉やゴミが溜まるので定期的に川の清掃が必要。バブル崩壊以降、時代とともに倒産し廃墟と化したホテルには管理者も無く配管も無造作に放置。川湯温泉が復活するにはこの温泉川を蘇らせるしかないと思いました。2016年、国の満喫プロジェクトが始まり、弟子屈町にも協力していただき配管等を全部撤去することができました。そこには川だけではなく、

噴火で出来た岩盤も顔を出したんです。でも、よく見ると川底にはタイルや割れたガラス片などが無数に埋まっていた。ホテルの増改築や、バックヤードから捨てられたものが長年堆積したんだと思います。岩盤を傷つけてしまうので重機を入れることができず、60度の源泉が流れるなか手作業での除去は汗だくで大変だけど綺麗になる川を見ているとうれしくてね。その後、川沿いに遊歩道が整備され夜間のライトアップも始まり新たな観光スポットとして岩盤テラスとなりました。そこに温泉の川がある事を知らなかった地元の人達が遊歩道を歩く姿を初めて見た時は、感動しました。誰かが歩くと次の誰かが歩き、そこに人が集まると観光客も自然と集まる。もしかしたら観光のために何か大きなことをやらなくても、地元の人が良くなったと思えることが次に繋がるまちづくりなのかもしれませんね。

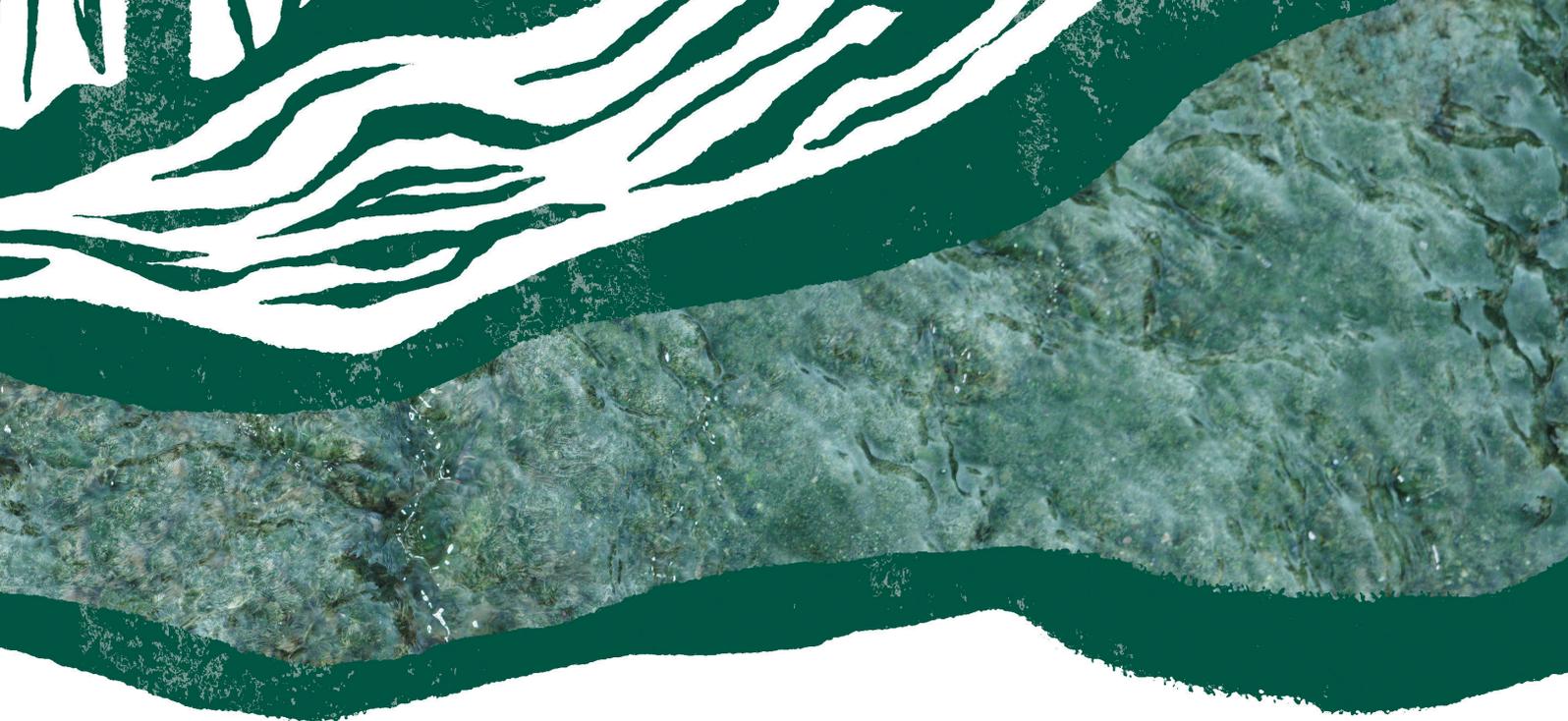
ポイント

地名の由来。

「川湯」はアイヌ語のセセキ・ペツ（熱い・川）に由来します。源泉が湧き出る川のほつりを歩くと、春に桜、夏に青葉、秋に紅葉、冬に霧氷など川湯の四季を感じることができ、また立ち昇る湯気は蒸気浴も楽しめます。

訪れるひとに望むつながり

川湯温泉にお越しの際はぜひ温泉川のほつりをそぞろ歩きしてみたい。川湯温泉の魅力がきっと見つかるはず。



阿寒摩周国立公園川湯地域運営協会
副会長 宮崎 健一さん

北海道弟子屈町川湯温泉出身。2011年阿寒摩周国立公園川湯地域運営協会に入会。2005年から2025年3月まで、川湯温泉でゲーツとお酒の楽しめる店「Darts bar TANTO」を経営。川湯温泉の好きな温度は高温。

元気の源

水面ギリギリから見える、温泉川の源泉の先に見える岩盤。岩盤を見る岩盤テラス。

解説

岩盤テラス

温泉街中心部に流れる温泉川に木道やウッドデッキ、テラスを設け、硫黄山のマグマによって熱せられた地下水が岩盤層の上を流れ、温泉街までたどり着くことを体感できる。木道に使用した材料は、取り壊し予定の施設から譲り受け再利用した。源泉付近の黄色は硫黄、川底の緑色は、緑藻。

つつじヶ原の散策（6月-7月）

阿寒摩周国立公園川湯地域運営協会が50年前から実施している、温泉街スタートの散策ツアー。硫黄山までの高低差もほぼない約3kmの道を歩き、硫黄山から出る火山ガスや、酸性土壌などに耐えられる高山性の植物たちによる特異な生態系をたのしむことができます。（帰路は車で送迎）



地域でつくり、地域でたのしむ。 川湯温泉街の味わい。

私のお店の食材は直接農家さんとやりとりをして、仕入れているものも多いです。レモングラスやパクチー、スイートバジルなどはうちのために作ってくれていて。夏場は川湯産の野菜もたくさんありますよ。それを大量に買ってドライトマト作ることも楽しみのひとつです。冬には大豆で味噌を仕込んだり。その副産物で豆腐を作ってみたり、おからも作ったりして。とっても美味しいんです。春夏秋冬で考えると、そばもあるので食材のバリエーションは北海道の他の地域より、多いかもしれません。少し前までは屈斜路でアロニアとシーベリーという果実を作っていて、それをシロップ漬けにしてジュースを提供していました。最近では弟子屈町でチーズを作っているのでも、それも来訪者は喜んでくれています。

川湯温泉街にお昼ごはんを食べるお店が減ってきていて。できるだけ遠くから来てくれた人や観光でわざわざ来てくれた人に食べてもらいたいので、地元みなさんは断らなくてはいけなくなっています。お店

はほとんど手作りでやっているのでも、どうしても一人で仕込みをする時間も長いんです。これから町が変わりゆくなかで、新しいお店が増えてくれるといいですね。

- ・春は山菜。ボリボリ、行者ニンニク。
- ・夏は夏野菜。トマト、きゅうり、茄子、ズッキーニ。そして、とうもろこし。
- ・秋から冬は、いも。じゃがいもも採れますし、最近ではさつまいもも。
- ・そば。そばの実、椎茸、小麦(キタホナミ)、そばの粉。

ポイント

地元での消費がほとんど、摩周ブランド。

摩周牛、摩周ポーク、摩周メロン。そして、摩周そば。川湯温泉がある弟子屈町にはブランド食材が豊富です。

訪れるひとに望むつながり

私たちが料理を提供できるのは、野菜などの食材を作る農家さん等の作り手がいるからだとすることを、食べる人にも理解していただければと思う。



すずめ食堂&バル
島山 明詞さん

北海道弟子屈町川湯温泉出身。アジア料理を中心にお野菜多めのお食事を提供する「すずめ食堂&バル」店長。川湯温泉の好きな温度は高温。

元気の源

自然とお水と空気、そして食べ物。

弟子屈町の地域ブランド①

摩周そば

一度倒して天日干してから収穫する刈り倒しという方法で、風味をより引き出す。さらに石臼引きで風味を損なわないように製粉。生産量がすくなく希少性が高い。

摩周メロン

郵便局の「ふるさと小包」以外では弟子屈町内ではしか購入できない「幻のメロン」。昼夜の寒暖差が大きく、おいしく甘くなる。

摩周ルビー

再生可能エネルギーや地熱を利用した、環境に配慮した栽培方法が特徴のいちご。酸味と甘味のバランスがよく、小ぶりながらも美味しい。



常連客がにぎわいをつくる、 川湯温泉街ならではの品質と安心。

川湯温泉街で開業して50年を過ぎました。開業当時はちょうどバブルの頃で、店が一番多かった時代です。寿司屋も私で3軒目でした。今でも週に2-3回は釧路まで仕入れに行っています。冬はあんこうの肝やたち。春は鯨。夏はカレイなどの白身魚。秋にかけてだと、今年も地場産のマグロを結構使いましたね。秋はウニが美味しくなっています。川湯は、オホーツク海と太平洋のちょうど真ん中に位置しているので、どちらの魚も入ってくるので良いですよ。ここは冬場が忙しいんです。温泉が良いから、近郊のお客さんが来ますね。そういうお客さんは観光には関心がないので、摩周湖も屈斜路湖も行かずまっすぐ来て温泉に入る。その後、それぞれの行きつけのお店に食事に出かけてきてくれます。ここではリピーターがいなければ、やっていけません。

50年前は飲み屋さんに行っても、食べ物屋に行っても、地元客と観光客で値段が違うんです。場合によっては銀座よりも高いという。そういうところはいなくなったので、今のみんなは健全でやっています。温泉

場の飲食店って、昔はよくそういうことあったんだと思いますよ。でも、そういうお店があると、そのお店がだめになるだけではなく川湯温泉街が駄目になってしまうでしょう。どのお店に行っても安心できること、ある一定の美味しさがあること。それを暗黙の了解のもと、お互いを仲間意識のもとやっています。これから新しいお店ができていくわけだけど、そういう意識で出店してもらわないと困りますね。

あと、温泉街全体で、ホテルと飲食店が協力して、泊食分離をもっと進めること。それを進めるには、飲食店の多い川湯温泉は適していると思います。

ポイント

どのお店にも地元客。川湯温泉についての話題も。

常連客の中には地元のみなさんもチラホラ。カウンターに座れば、これからの川湯温泉がわかるかも?!

訪れるひとに望むつながり

一度来た人がリピーターになるよう、私達も努力しているので、ぜひ何度も訪れていただきたい。



味楽寿司

大浦 健一さん 大浦 勇樹さん

健一さんは、山形県出身。息子の勇樹さんは、北海道弟子屈町川湯温泉出身。川湯温泉で唯一の寿司屋「味楽寿司」は1975年創業。川湯温泉の好きな温度は高温。

元気の源

お店が終わってから出かけるスナック。

弟子屈町の地域ブランド②

摩周和牛

摩周湖の麓で育てられ、赤身とサシのバランスがよいA5等級の摩周和牛。2019年には、北海道総合畜産共進会で最高位賞を受賞し、2020年にはジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会で最優秀賞を受賞。

弟子屈町のチーズ

摩周湖の伏流水と豊かな自然で育まれた放牧牛の生乳を原料とする、弟子屈チーズ工房。フロマージュ・ブラン、ゴーダチーズ、モッツァレラチーズ、ストリングチーズなど、様々な種類のチーズが作られています。

弟子屈町のワイン

冷涼な気候と温泉水を活用した栽培、野生酵母での発酵、そして無添加または極微量の酸化防止剤の使用といった特徴のワイン。特に「山幸」という品種のブドウを使い、野趣あふれる果実味と力強い酸味が特徴の赤ワインが造られています。

まとめ

いよいよインタープリテーションのメインステージ、温泉街です。ここでは川湯温泉街再整備の象徴である岩盤テラスを中心とした温泉川の以前の姿から有志による清掃活動、そして姿を現した岩盤の物語を伝えていきましょう。もちろん温泉街散策のたのしみである食の魅力も豊富にあります。ひとつの町でこんなにも地域団体商標を取得した特産品がある場所は他にありません。その一つひとつに生産者のこだわりが詰まっており、それだけでも語れることはたくさんあります。最後は飲食店が地元客も含めた、リピート来訪者の常連客が多いこと。これは飲食店が安心して利用できるだけでなく、満足度が高いことが理由です。それぞれのお店のこだわりや人柄も、伝えていきましょう。

キーワード

入浴ではなく 体感	多様性のある 温泉街	持続可能な地域	川湯の人独自の 浸かり方
温泉川の 清掃活動	見せられない川	手作業で清掃	岩盤が 見えるように
食材の バリエーション	摩周ブランド	オホーツク海と 太平洋の真ん中	美味しさと安全
飲食店の意識			

効果的な体験



岩盤テラスの散策



摩周ブランドをたのしむ



飲食店をはしごする

自然にも街にもやさしい。

人と心。





好きな場所を大切にすることが、 川湯ファンを増やす。

私は昔から体が弱くてね。23年前に具合が悪くなってから、朝に足湯まで散歩に行くようになりました。その時に当時の小学生が作ったポスターを見たんです。そこには「僕たちの通学路にゴミを捨てないでください」と書いてありました。衝撃を受けましたね。確かに大人たちはもう車社会になっているから、誰も歩いていません。子どもたちだけが、ゴミがいっぱい落ちているのを見ながら学校に行っているんだなと。それから朝の散歩がてら、ゴミ拾いを続けています。ゴミ拾いをしながら散歩をしていると、自然のなかでたくさんのお会いがありました。ミヤマカケスの合コンからオオルリの春の恋。アカゲラやアオバズクの子育て、シマエナガの家族、そしてエゾフクロウ。森には、いっぱい命が溢れているんです。その命に触れることで、私も元気になっていきました。出会いは自然だけではなく、川湯温泉にいらした来訪者ともたくさん思い出があります。木彫り体験をご案内したご夫婦。お掃除をしていた時に、手伝いますと言ってくれた方。他にもたくさんの来訪者が「また来たよ、ただいま」と何度も来てくれるようになりました。大

雨でずぶ濡れのままサイクリングをされていた海外の方を助けた時には、帰国後に日本語でお礼の手紙をくれました。

自分の好きなところをやっぱり大事にすれば、来た人もいいなって思うのだと思います。暮らす人たちがおもてなしの気持ちを持つこと。何か一つ聞かれたとしても、きちんと誠実に対応すること。そうすると、ご案内も親切にできるはずです。だから、本当にこの場所の良さを知って、この場所を好きな人をいっぱい育てていてもらいたいですね。

ポイント

川湯園地の足湯周辺。

鈴木さんのお散歩コースでもある足湯周辺は、美しい森の入り口。木陰に隠れた源泉も発見できるかも。

訪れるひとに望むつながり

川湯ビジターセンター2階の阿寒摩周国立公園の紹介ビデオをご覧ください。川湯温泉に宿泊の折々に各所を訪ねていただき体感体験してもらうことで、この唯一無二の大自然の壮大な営みを感じていただき、町民と共に大切に思ってもらえたらしあわせ。



風月堂

鈴木 由美子さん

北海道佐呂間町出身。1979年に「菓子司 風月堂」をオープン。川湯温泉の好きな温度は中温。

温泉入浴のポイント

じっくり温まった後の仕上げは、冷たい水で絞ったタオルで体全体を拭いています。毛穴が閉じて、汗もふき出さず、ぬくもりと温泉成分を取り込んだ、川湯温泉の「整う」です。

元気の源

この町の美味しい水をいただいて、しっかり食べ、ぐっすり寝て、ほどよく働き、好きなお花を咲かせて楽しむこと。

解説

森の鳥たち



アカゲラ



ミヤマカケス



アオバズク



シマエナガ



エゾフクロウ



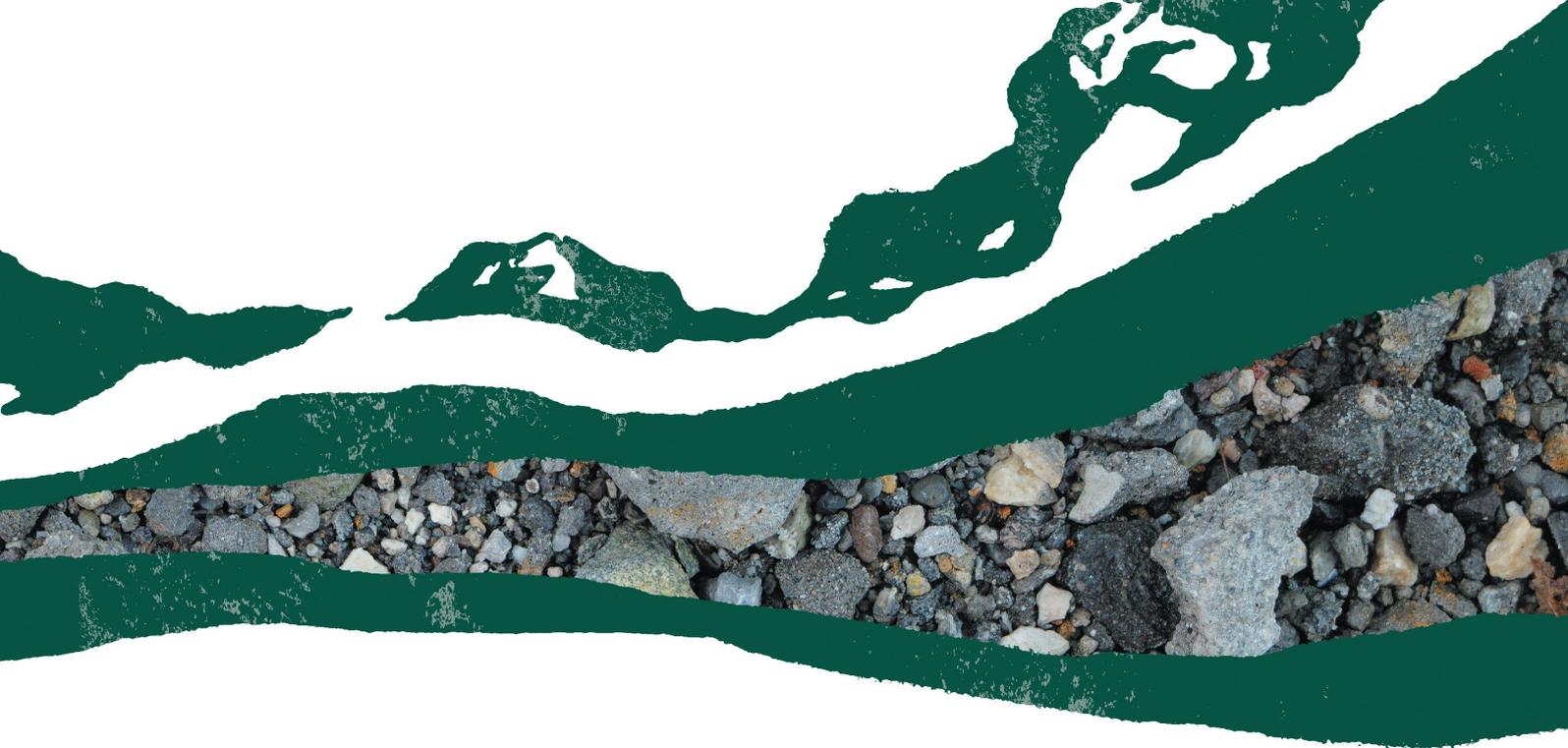
自分たちが汗をかく。 それが本物のまちづくり。

すべての始まりは、川湯の若者たちの自主的な活動です。温泉川をきれいにして、温泉街をどうにかしようと清掃を始めたこと。つじヶ原の朝の散策を続けていたり。そんな様子を見て感心していました。そして阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトが決まり、動き出すのです。その後、阿寒摩周国立公園弟子屈町川湯温泉街まちづくりマスタープランを策定。廃業したホテルやその土地を買取り、解体しています。

昔は浴衣と下駄履きで人が歩けないくらい、3000人ほど泊まっていたんじゃないかな。うちは酪農家だったのだけど、泊まれない人が泊めてくれと来るんだ。かわいそうだったから、泊めてあげたけど。そういう時代だった。それから徐々にお客さんが減ってしまい、閉店や廃業が増えていった。そんな状態のホテルもお店も、守ろうとしたけど、守れなかった。町長になったのが24年前、当時はそんなことができなくて守りきれなかった。その悔しさは今でもある。だから川湯のこれからは、夢のようですよ。そして、色んなひと

に感謝しなきゃいけない。環境省のみなさんの熱意もありがたい。役場の職員もよくやってくれています。ふるさと納税も活用して進めているので、都会から来たお客さんたちに本当のおもてなしも考えないといけない。小さなところだけどトイレまでも整えてお洒落にしたり、いつもピカピカにしてね。そういうことをして、感謝の気持ちで返していこうと。そして、新しい人や来る人だけに予算を使う問題でもないから、住んでいる人たちもしっかりとがんばってくれて、守っていけるように進めないといけません。今の人たちも努力してよかったなと思うことを、一緒になって作らないと。住んでる人にとってもいいし、外からも入りやすい環境、暮らしと観光のバランスが一番大切です。誰から見ても良い方向に向けて行くんです。

農協の組合長だった時代から、特産品づくりは進めてきました。摩周メロンにはじまり、摩周そば、摩周和牛、念願だったチーズもつくりはじめています。そこに満喫プロジェクトがはじまることで、いよいよ川



湯温泉の奇跡が起こりはじめます。日本全体が大きな転換期を迎えるなか、原点をきちっと変えてみながら、新たなものに挑戦していく。守るだけでなく、やっぱり新しいものに生まれ変えていくことをしなければ、生きていけない。戦後開拓の時代に入植してきた先人も、みんな長く苦勞してこの土地を開いていったのです。こんな寒いところで、米も作れない、この場所でね。そんなことに思いを馳せながら、頑張れる土壌を作っていきたいと思います。

訪れるひとに望むつながり

摩周湖・屈斜路湖・硫黄山がある大自然のなかで、シマフクロウ・タンチョウ・白鳥など様々な生き物に会い、美味しいものを食べて、のんびりと自然を満喫してほしい。



弟子屈町長
徳永 哲雄さん

北海道弟子屈町川湯温泉出身。1968年から農業（酪農業）に従事。弟子屈町農業委員会会長、摩周農業協同組合代表理事組合長などを経て、2000年より弟子屈町長を務める。川湯温泉の好きな温度は中温。

元気の源

弟子屈から美留和の坂を上り硫黄の香りがしてくると、川湯に帰ってきたなという気持ちになり元気が出る。

まとめ

インタープリテーションの最後の要素は「人と心」。ここには、どんなに素晴らしい自然環境や温泉があったとしても、伝えたい歴史や残すべき文化があったとしても、温泉街や食やお店に魅力があるとしても、そこで働き、住み続けていくわたしたちが大切にしなければならないことをまとめています。ここは良い場所だな、また訪れたいな。今度は誰かを誘ってみようかなと思ってもらえるような川湯温泉街にしていくために、いったいどんなまちづくりが必要なのでしょう。訪れる方々が喜ぶおもてなしとは、どんなものなのでしょう。

キーワード

誰かがはじめたら、
それを見てくれる人がいる

まちを守っていくためには、
どうしたら良いか

都会のひとが喜ぶ、
本当のおもてなし

感謝の気持ちを
返していこう

暮らしと観光のバランス

みんなが頑張れる土壌

自然との出会いに
感謝する

自分を大事にして、
自分を楽しむ

自分を認め、
相手を認める

自分のモラルからは
外れない

効果的な体験



まちづくりに参加する



自分の暮らしで守るべきことを
考えてみる



本当のおもてなしを磨いていく

マスタープランと
これから



環境省が推進する国立公園満喫プロジェクトにおいて地域指定された8つの国立公園のひとつに阿寒摩周国立公園が選定されました。町では特に、川湯温泉地域の特徴を活かし、その魅力を世界に発信していくための新たな事業を推進するため、20年間の計画期間とする川湯温泉街再整備に関する基本的な方針をこのマスタープランにまとめました。

川湯温泉街にふさわしい規模での持続的な発展のため、さまざまな体験ができる施設整備を行う予定です。川湯温泉街を流れる「湯の川」を中心に、多くの自然に囲まれた森の中の温泉街を実現していくため、皆様のご協力を引き続きお願いいたします。



「湯の川がつむぐカルデラの森の温泉街」

川湯を流れる湯の川は、硫黄山から屈斜路湖へ流れ込み地球の自然活動をダイナミックに見せると共に、川湯に良質な温泉という恵みをもたらし、120年以上に渡りこの地に住む人々の生活を育んできました。

これからの川湯温泉では、湯の川を街の主演とした表通りにすると共に、国立公園にふさわしい森に溶け込むような街づくりをする事が川湯温泉にしかない魅力を創出し、川湯に新たな人を呼び込み、交流と物語を紡ぎ出します。

開発の方向性

1 川湯温泉の特長を際立たせる

- ・ 川湯最大の特徴である湯の川を中心とした街づくり
- ・ 国立公園内の立地にふさわしい自然と賑わいが一体となった街並みづくり

2 適切なスケールの街づくり

- ・ 観光客入込者数、宿泊施設数、商業店舗数など、数ではなく質を求める川湯温泉エリアにふさわしい規模の街づくり
- ・ 建物の高さや規模など、街が一体となった上質な景観づくり

景観ルールの策定

- ・ 訪れる人が求める国立公園にあるべき姿、川湯らしさを「丁寧なデザイン」としてルール化する。
- ・ 既存の住人・事業者とこれから参入する事業者が、統一の目標・意識を持ってこの街の景観を守り育てる。

目指すべき姿を維持し、街の景観が川湯の財産となる

3 訪れる目的を増やす

- ・ 温泉や宿泊に加え、ロングトレイルの立ち寄りや日帰り観光など、川湯を訪れる新たな目的を作り総体的に集客増を図る
- ・ 観光客の入込が落ちる冬季に、冬ならではのアクティビティや楽しみをつくり出し、一年を通した集客を図る
- ・ 宿泊率の向上へと繋がるよう、日中のアクティビティや街歩きなど滞在時間の消費拡大となる街づくりを行う

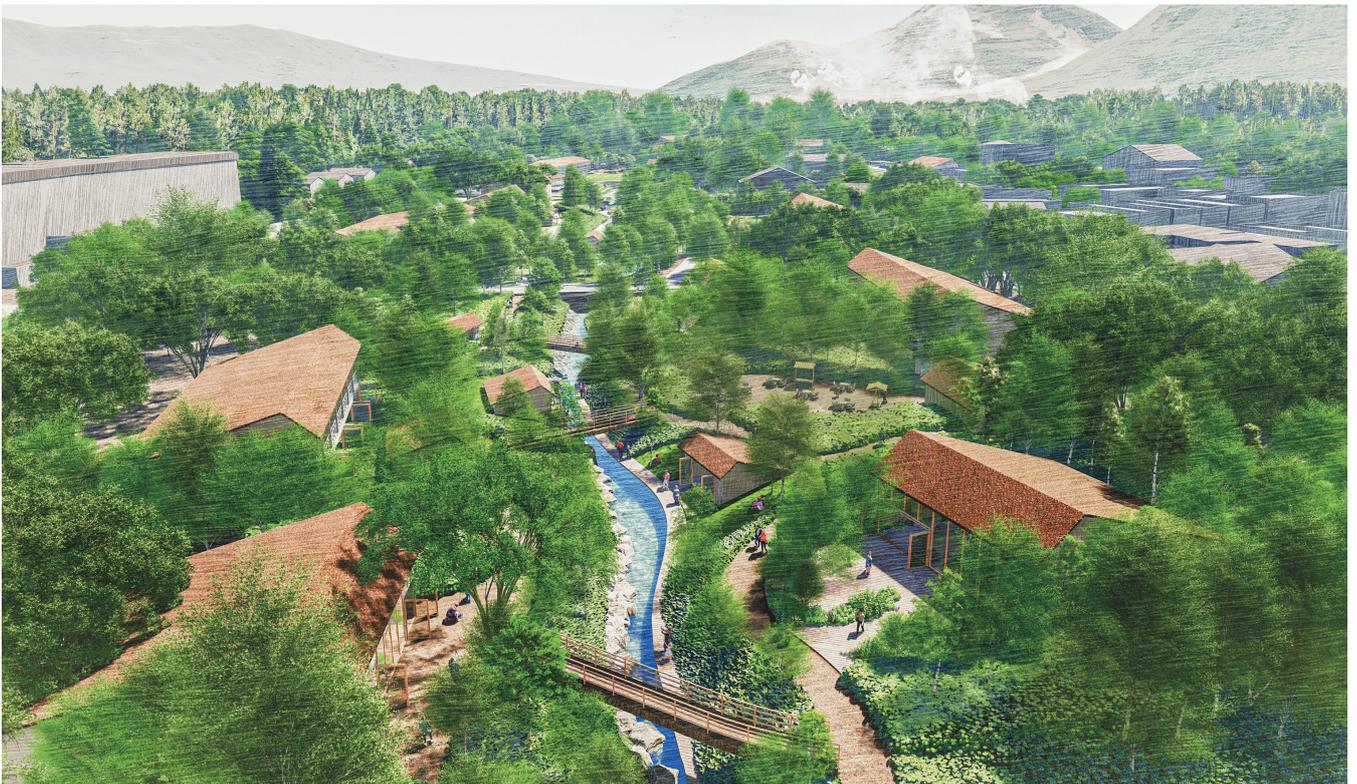
川湯広場

川湯温泉の最大の特長である、まちなかを流れる温泉川に浸かる温泉だまりをまちの中心地につくり出し、川湯の新しいシンボリックな場所とする。



川湯テラス

川湯の特長である温泉川により気軽に触れられる親水エリア。川の兩岸を人が歩きくつろげるスペースとして整備。



川湯横丁

温泉川沿いに小区画屋台を点在させ、湯けむりの景観と融合した幻想的な屋台を創出する。



着想・インスピレーション

川湯を取り囲む大自然、幻想的な自然現象や自然が生み出す特有の姿を守る。

森の中に溶け込む街並みを形成し、多種多様な居場所を創出する。

マスタープランコンセプト「湯の川がつむぐカルデラの森の温泉街」

全体デザインコンセプト

川湯『森のスケール』

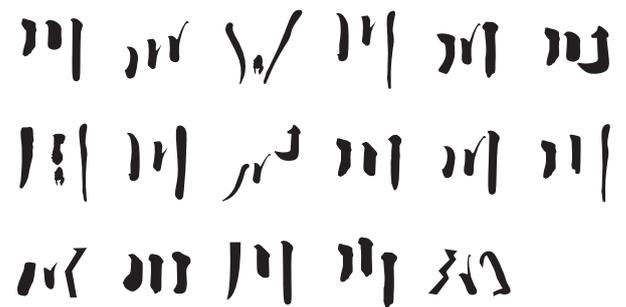
エリア全体として川湯温泉街を取り囲む大自然が主役となり共存し続けるための普遍的な街並みを目指す。今後川湯温泉街は、国立公園の大自然にふさわしい自然環境を取り戻していくが、その中で木々の高さや密度、樹種や周辺の山々・夜空の見え方など、自然の本来あるべきスケール感をエリア毎に整理し、その中にふさわしい建物の大きさ、色・素材・照明等をつくりだす。今後、エリア別に設定したデザインコンセプトに基づきルールや規則の作成へと繋げていく。

2025年1月から川湯温泉街の事業者や住民を中心として、「川湯温泉街ブランドミーティング」を開催。観光まちづくりの考えから、これから提供すべき価値づくり、在るべきディスティネーションの姿まで議論。ロゴデザインとキャッチコピー、ステートメントを策定しました。



新たな川湯温泉ロゴマーク

コンセプトは「これまでの継承と再構築」。川湯温泉街をみなさんと歩き、川湯神社や看板・標識、廃ホテルの名前や商品名などから「川」の文字を採集。それらの意味を考えながら組み合わせることで、新しい「川」の文字をデザインしました。



これからの川湯温泉ツーリズムコンセプト

自然も自分も、まちも自分も、よりよくなるツーリズムへ。

もちろんくつろぎのための観光体験、ストレスからの解放など「癒し」を原始の自然、温泉や食・文化体験を通じて提供していくが、新しい川湯温泉ツーリズムとしてのコンセプトチャルな旗印は「自然、まち、自分の再生型ツーリズム」と策定しました。風月堂の鈴木さんの物語から発想の原点となった「いのち、目覚める。」はキャッチコピーとして使用していきます。ロゴマークは、硫黄山と噴煙、大地、温泉川と湯煙、そして硫黄山から続く岩盤層を描いています。



資料集



日本最大のカルデラが生み出す、 火山、湖、森の物語。

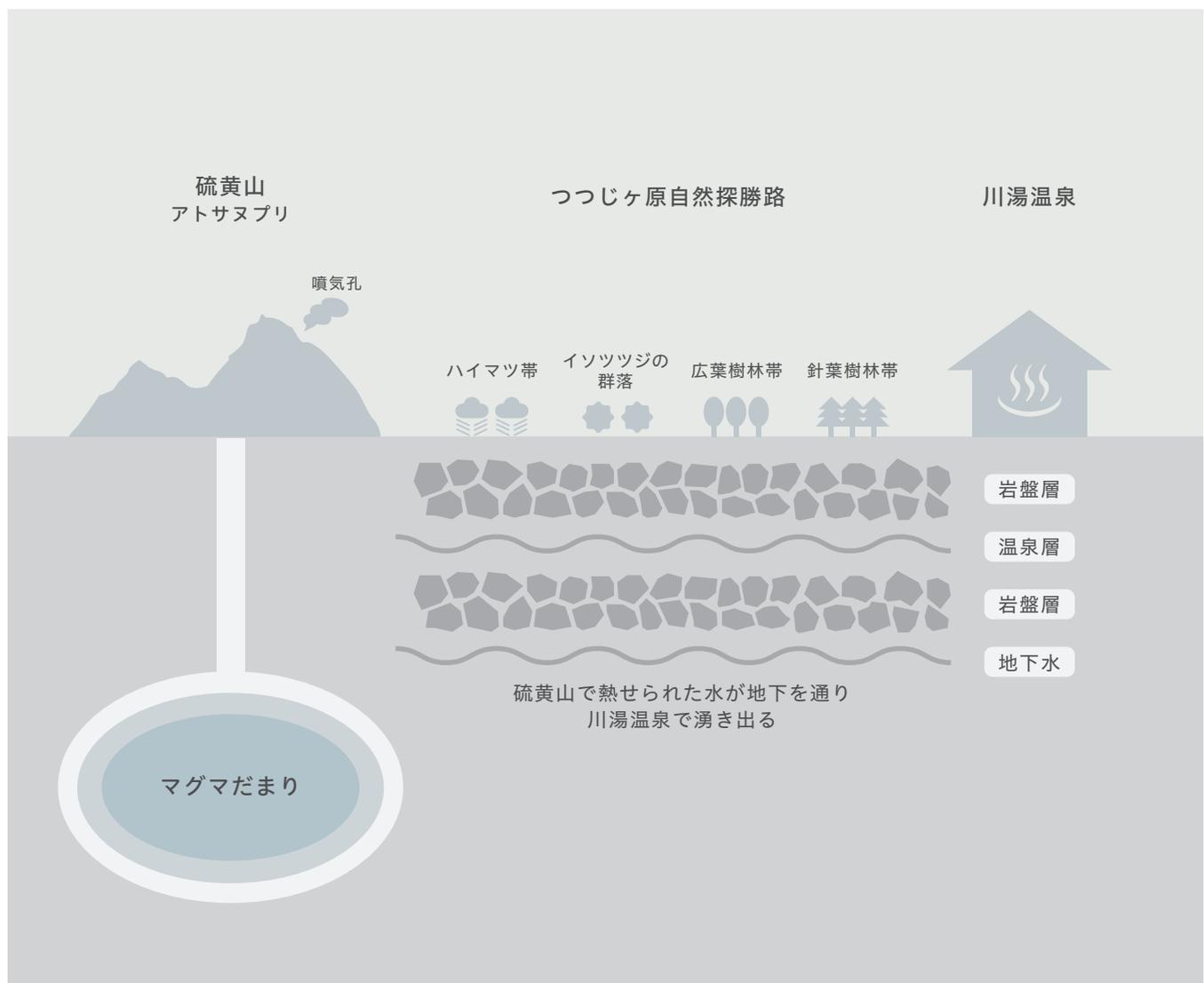
約4万年前の大規模な火山活動によって形成された、東西約26km、南北約20kmの屈斜路カルデラ。西側のサマッカリヌプリ(974m)、北側の藻琴山(1000m)や東側の摩周カルデラなどの外輪山に囲まれており、屈斜路湖、摩周湖や原生の自然を、長い時間をかけて形成されてきた大地の動きと共に感じることができます。



硫黄山がなければ、川湯温泉はない。

特異な現象が生み出す、温泉。

摩周湖の伏流水が硫黄山によって温められ、一部は1500以上ある噴気孔からの白い蒸気となり、一部は地下水と混合しながら、つつじヶ原の地下の浅い部分の岩盤の上を流れてきます。岩盤は水を通さないため、空気に触れることなく温泉街まで辿り着くのです。その距離約4キロメートル。他の地域で温泉を掘る際には、地下数百メートル以上掘る必要がありますが、温泉街付近では地下1〜30メートルほどで温泉が湧き出ます。これは地表に近い地層に温泉が流れ、地下水と温泉層の逆転現象が起きているため。とても珍しい現象です。





宿泊施設一覧



川湯観光ホテル
川湯温泉1丁目2-30
TEL : 015-483-2121



**川湯保養所
KKRかわゆ**
川湯温泉1丁目2-15
TEL : 015-483-2643



お宿欣喜湯
川湯温泉1丁目5-10
TEL : 015-483-2211



**川湯温泉リゾート
クネネチュプ**
川湯温泉1丁目12-1
TEL : 015-486-7779



お宿欣喜湯 別邸忍冬
川湯温泉1丁目2-3
TEL : 015-486-9701



EZO HOUSE
川湯温泉1丁目5-40
TEL : 015-486-7767



**アートイン
極寒藝術伝染装置**
川湯温泉3丁目2-40



**名湯の森ホテル
きたふくろう**
川湯温泉1丁目9-15



ホテルパークウェイ
川湯駅前3丁目2-10
TEL : 015-483-2616



**コテージ
ログハウス川湯**
アトサヌプリ原野71-88
TEL : 015-486-7767



**川湯ゲストハウス
NOMY**
川湯温泉1丁目5-48
TEL : 015-486-9181

飲食店一覧



オーチャードグラス
川湯駅前1丁目1-18
TEL : 015-483-3787



いなか家 源平
川湯温泉1丁目5-30
TEL : 015-483-3388



居酒屋 祭蔵
川湯温泉1丁目5-33
TEL : 015-483-2165



スナック COCO
川湯温泉1丁目4-12
TEL : 015-483-3733



ユナイト
川湯温泉1丁目4-24



**硫黄山
MOKMOKベース**
川湯温泉1丁目52-1
TEL : 015-483-3511



カフェ ノーブル
川湯温泉1丁目4-8
TEL : 015-483-3418



お多福食堂
川湯温泉1丁目4-23
TEL : 015-483-2105



味楽寿司
川湯温泉1丁目5-36
TEL : 015-483-2036



ざっく安堵ばらん
川湯温泉1丁目5-46
TEL : 015-483-2580



そば処 東屋
川湯温泉1丁目5-52
TEL : 015-483-3644



味どころ 三三五五
川湯温泉1丁目4-10
TEL : 015-483-3355



炬ばた まるはち
川湯温泉1丁目5-18
TEL : 015-483-2029



羊小屋ラムチョップ
川湯温泉1丁目4-25
TEL : 015-486-7762



スナック エンゼル
川湯温泉1丁目7-2
TEL : 015-483-2868



**くりーむ童話
カフェ&キッチンちゅっぷ**
字跡佐登原野65線71-3
TEL : 015-483-2008

その他



川湯神社
川湯温泉3丁目2-45
TEL : 015-482-2074



馬頭観音
川湯温泉2丁目4番



温古知新
川湯駅前2丁目6-12
TEL : 015-483-3351



西沢商店
川湯温泉駅前2丁目1-6
TEL : 015-483-2347



**生活雑貨・ぱん
PANAPANA**
川湯駅前1丁目1-14
TEL : 015-483-3188



お問い合わせ先

弟子屈町 観光商工課

川湯温泉街整備室 川湯温泉街整備係

〒088-3292

北海道川上郡弟子屈町中央2丁目3番1号

電話番号：015-482-2940

ファックス：015-482-5669